

# 日本脳炎予防接種を受けるにあたっての説明

## ● 日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染でおこり、ヒトから直接ではなく、ブタの中で増えたウイルスが蚊によって媒介されます。症状が現れずに経過する場合はほとんどですが、症状が出る場合は、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

## ● 流行

流行は西日本地域が中心になりますが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタでの流行は毎年6月～10月まで続きますが、この間に地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。

ヒトの感染者の内、100人～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかったときの死亡率は20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

## ● 接種年齢：Ⅰ期は生後6か月～7歳6か月未満（標準的な接種年齢は、Ⅰ期初回は3歳～4歳未満）

（Ⅰ期追加は4歳～5歳未満）

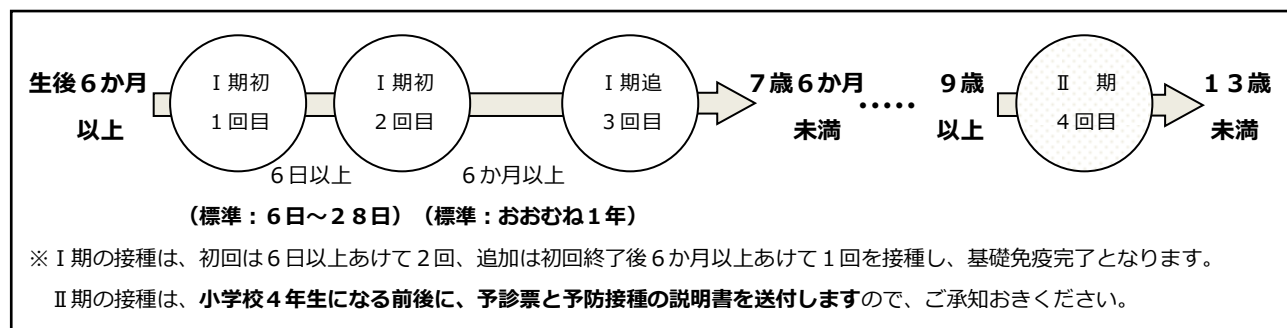
Ⅱ期は9歳～13歳未満

（標準的な接種年齢は、Ⅱ期は9歳～10歳未満）

※小学校4年生になる前後に、予診票と予防接種の説明書を送付します

## ● 接種スケジュール：Ⅰ期初回は2回、Ⅰ期追加は1回、

Ⅱ期は1回



## ● 主な副反応

局所の反応として、紅斑（赤くなる）、内出血、疼痛、腫脹（はれ）、かゆみ等、全身の反応として、発熱、発しん、じんましん等がみられます。

まれにおこる重大な副反応としては、ショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病等がみられます。